

第3回 旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会（議事概要）

- 1 日時 令和2年12月25日（金）午前10時～11時37分
- 2 場所 市役所本庁舎6階 6-3・4会議室）
- 3 出席者 （1）委員（Web会議2名）
柳委員長、福山副委員長、飯野委員（Web会議）、木田委員、堤委員（Web会議）、湯口委員
（2）事務局
高橋企画推進部長、渡邊政策企画課長、平田政策企画課課長補佐

4 内容

●委員長挨拶

今日の議題は、市がアンケート（意見聴取）を行いグルーピングされた。次回アンケートについて忌憚のない御意見をお願いしたい。

●委員からの主な意見

- 委員 A3の分類で、例えば教育・学習、コミュニティ、医療福祉と、交通、飲食を並列に扱っていいのかが気になる。あった方がいい機能を多数いただいた中で、それを同列に見ていいのかが検討が必要。鳥取市として、どのテーマを重視するのか、メッセージに関わる。文化、医療、教育が比較的数が多かったテーマ。どれを中心にしていくのか考え方の整理が必要。
- 委員 整理の仕方でもリハリをつけたらどうか。
- 事務局 まずは皆さんのご意見をいただくというところ。優劣、メリハリは、現段階では考えていない。皆さんの意見をまず見ていただき、まとめていきたい。したがって、今後、この活用策をまとめる段階で、市の意見を含めたいと思っている。今の段階では、皆さんの意見を示しアンケートを取りたい。
- 委員 例えばアクセス面で駐車場が課題という話と、教育が重要と話は全く別物。性質が違ふということ整理をする必要があると思う。
- 事務局 今後、まとめていく段階で整理したい。
- 委員 分類の順番は意見が多い順か。
- 事務局 第11次総合計画の体系に従って整理している。意見の大小ではない。
- 委員 一番多かった意見は分かるか。
- 事務局 数を示すことは可能。
- 委員 数の分類でマトリックスを作ると違う見方ができる。
- 委員 まとめ方はまとめたものをどうするかによる。集約した言葉が意見を反映させているか。①専門学校等は生涯学習等でまとめた方がいいのではないかと。②集会交流機能は居場所がキーワード。憩いの場がほしいのでは。子育てのイメージ。③オープンスペース、コミュニティ、文化は機能としてつながっているので意識してほしい。
- 委員 機能をすばっと分けてしまうのは難しい。次回のアンケートに十分検討してほしい。
- 委員 分類の話。民間と自治体がやるもの、その程度は分ける必要があるのではないかと。鳥取市がどうするのかにつながる。優劣はつける必要はない。すべてができるわけではない。そのあたりの切り分けが必要。できないことは専門家委員会や住民では

議論しにくい。次の議論につながる分類が必要。

- 委員** 最初の分類の仕方としては良い。図らずも跡地利用として WS 等をやった結果、第 11 次総合計画に対する市民の評価が出ていると思った。つまり、それぞれの項目に対し市民のニーズが充足しているか否かの評価がでたという点で、まず第 1 次の資料だと思う。さらに行政の準備資料によって鳥取市の強み・弱みがどこにあるのか整理されている。これらをもとに整理すると、他の施設でも代替できるものや、本当に不足しているものが何か整理できる。それをアンケート調査につなげるといい。さらに、それを公共がやるのか民間でもできるのかなど、特に費用負担の問題が大きな争点になるので、そうした論点を専門家である我々が整理すれば、住民の皆さんに合理的に判断する根拠を提示できるのではないかと思う。
- 委員** 非常に厳しい市民の評価が現れているのではないか。鳥取市で SWAT 分析をどう考えるか、民間と公共がどう絡みあっているのかという意見をいただいた。
- 委員** 参考資料で羅列したものよりまとめると見やすい。想定外のものもある。にぎわいを取り戻すとか人を集めるとかそういうことにこだわらなくても、鳥取市の観点とか活性化ということを考えると、何もしないと、ひとまずこのまま置いとくという意見も結構あり、なるほどなと思ってみたところ。
- 委員** これはたたき台。今後、これらの意見を次回のアンケートに結び付けたい。
- 委員** ワークショップの属性は。
- 事務局** 年代は 10～80 代。年齢層の高い方が多かった。
- 委員** 案 1・2 では負担が変わるので回収率も変わってくると思う。返ってきてても有効回答が下がる。一つだけ○の場合それを有効とするのか。
- 委員** 案 2 の 5 段階で、例えば一つだけ○を付けてそれが有効なのかどうか。
- 委員** 案 2 は公共施設の場合は難しい。みんな必要とする可能性が高い。なぜなら費用がかからない。トレードオフの関係にならない。どれも重要に○をつけて終わる。どちらかと言えば案 1 の方。アンケートをどう有効活用するかである。説明で、数が多ければよいということではないとあった。例えば①が多かった場合、それを優先的に検討して、優先順位の高い順に検討する。数が多いのがいいという話ではない。
- 委員** このアンケートは、例えば 1 番点数が高いのをどう使われるのか。
- 事務局** 数が多いものは市民の皆様が必要であるもの。活用策を示すときは、アンケートも考慮し、重要なポイントとなる。定量的な意見を伺うためのアンケートである。
- 委員** どう活用するか。どういう議論になるか。どう複数案に絞るかが分かればご提案もできる。
- 事務局** 次回の専門家委員会ではアンケートの結果をお示ししながら議論いただくことになる。アンケート結果にもよるが多くても 5 つ程度の求められる機能にまとめ、来年度、具体的な活用策をしばっていく考え。まずはその 5 つ程度の求められる機能というものを、決めさせていただくために、定量的なアンケートをする。
- 委員** 求められる機能は住民アンケートを使ってまとめるということによいか。
- 事務局** 住民アンケートを活用する。ただ、何度も申し上げるが、アンケートで多いものが活用策の重点的なものにはなってくるとは思うが、それが最終的に多かったからこの方向性で決まるというわけではない。それだけは確認いただければと思う。
- 委員** アンケート結果が必ず採用されるということではない。中身を精査して、最終的に決めようということ。

- 委員** 案1か2かは迷う。心配なのは、アンケート用紙だけを送られてきて住民は判断ができるかどうかである。将来に責任を持って住民に考えてもらいたいのであれば、鳥取市の現況、課題、解決に向けた取り組みの内容など、いわゆる総合計画の中身を分かりやすく示した資料を同封する必要がある。学術的には、資料ありのアンケートと、資料なしのアンケートで回答にどのような違いがあるかを見たいところだが、少なくとも、直接跡地をどうするかではなく鳥取市のまちをどうしたいかという情報提供がセットでないといけない。場合によってはアンケート実施時期をずらしてもらうことになるかも知れない。もう少し考えてもいいのでは。
- 委員** 十分な情報提供。総合計画等を十分情報提供しないと調査票は有効に使われない。情報提供の考え方はどうか。
- 事務局** おっしゃる通り。アンケートだけでは難しいのでと内部で話をしていた。ワークショップ等での資料を抜粋しながら、アンケートを実施したいと考えている。資料を後日お送りしたい。準備はしたい。
- 事務局** 補足する。委員が言われた総合計画が最終的な取りまとめの段階で、1月には答申をいただく予定。次の総合計画のある程度簡単にまとめたものは、2月以降であれば、アンケートに入れることができるので、それについては考えてみたい。
- 委員** アンケート結果は住民の方に情報提供するのか。
- 事務局** 市報は、この専門家委員会の1年の取りまとめ・経過を出す準備を進めている。ただ、アンケートの結果が出るのが3月ごろ。今、考えているタイミングでは間に合わないかも知れないが随時、専門家委員会の協議の経過、跡地活用策検討の進捗状況等を情報提供したい。差し当たって市報2月号に掲載準備を進めている。
- 委員** アンケート前に広報も必要。アンケートの問3。機能と同様①～⑩の項目でレベル感と異なる性質がまざっているので整理が必要。①～⑤の内容は、主に活用の仕方に関するものでHowに関わるもの。⑦～⑩は、テーマ、Whatに関するもので性質が異なるものがまざっているのもう少し整理するとわかりやすい。行政がやることと民間がやることの話。行政として重要と考えるものと市民が重要と考えるもので整理ができないか。問2は、今回ワークショップで出たので、主に市民として重要だと考えた項目。一方、問3は、市として、重要と考えている考え方。2つの質問を重ねることで、市民としても重要かつ行政としても重要というのが、浮かび上がってくるのではないか。そうすると次の施策につなげやすいのではないか。
- 委員** アンケート内容を機能別・項目別に整理という話。資料4-1と4-2どちらを採用するかというのも今日のテーマだった。
- 委員** 案1の方が答えやすいがランキングはなくても良いのでは。1、2、3位は重要か。
- 事務局** 順位付けするアンケートとしないアンケートがある。今回はより市民の意見を具体的に聞きたかったので順位をつけている。
- 委員** 中身をもう一度検討するとしても、案1・案2のどちらを採用するという結論まで至らないといけない。委員は案1がいいという意見が多い。案1がいいが、中身をもう少し検討してアンケートに結び付ける。中身についての意見はどうか。
- 委員** 「ない方がよい」→「なくてもいい」である。⑤の意味は。複数の機能を持つという意味だったらもう少し別の言い方がある。
- 事務局** ここで表現したかったのは「複合的な機能を持ち合わせているもの」。表現を検討す

る。

- 委員** 今、総合計画を策定中とのこと。例えば、機能でホテル宿泊機能とか、その他、土地は歴史文化を有する観光・居住の舞台という計画があるが合致しない機能を除いてしまうのか。もしくは規則を変えて入れるのかという意見もある。機能 17 をすべて、選択肢とするのはどうか。
- 委員** 今回のアンケートは、17 項目はほとんど考えられるすべての機能が出てきている。何らかの形で絞り込んで聞いた方がいい。住民も答えづらい。民間に任せれば市としては土地を貸すだけ。市として整理しないと答えてもらえない気がする。総合計画に合わせてもう少し整理して聞いた方がいい。決め方を決めてくれないと何とも答えられない。
- 委員** 技術的なことからお願いしたい。選択肢の中から 3 つを選ぶ場合、選択肢はせいぜい選択数の 3 倍ぐらいまでにしておかないときちんと考えてくれない可能性がある。17 個もの選択肢はかなり危険。思考停止の答えが返ってくる可能性が非常に高いというのが、まず技術的な問題としてある。次に選択肢の絞り方は総合計画の分類を使うのも一つの方法である。この場合、市の考え方と住民の考え方のずれが出てくる可能性があるが、次の段階で、なぜ市がこう考えているのかということ、住民と話し合う場につなげることができ、議論の積み上げが可能となる。総合計画という形で整理してもらえると次のステップに行きやすいし、行政も説明がしやすいと思う。
- 委員** アンケートを回収しクロス分析をかけた時、例えば問 3 ⑦・⑧の結果が想定できる。若者は⑦が重要で、高齢者は⑧に丸をつけると思うので勘案し工夫が必要。
- 委員** 個人的に 17 は選べる。跡地活用に興味がないと 17 は多い気がする。
- 委員** 皆さんの意見がもう少し機能を絞ってということ。総合計画等、別の切り口で分類し、アンケートを取ったらどうかという話なので、また、検討していただければと思う。対象者の件。2000 人、地域別年代別でサンプル抽出する。
- 委員** 有効回答数が全国で 2000 人くらいなので自治体では 400 人でいいと思う。答えてくれる年齢が上がるので我々はネットを使う。数が多い方が安心。若い人、忙しい方からどう取るのか工夫していただいた方がいい。
- 委員** 選挙と一緒に、高齢者の方が多いというお話もあったと思うが、結果が全体を適切に表せていないような結果になったときはどうする予定か。若者の回答がほとんどなかった時にどうするのか。
- 事務局** 総合計画でも、高齢の方の回収率が高い。回答率における加重平均により統計学的には整理できる。
- 委員** 意見をグルーピングしてもらったがもう少し集約できるのではないか。アンケートは案 1 で内容はもう少し整理した方がいいという話があった。
- 委員** 次の専門家委員会で、機能のある程度絞ると認識している。どう絞っていくのか手順を示してもらえるか。
- 事務局** アンケートを実施した上で、どのように絞っていくのか案を示す。それをまた専門家委員から意見をいただきながら、最終的な絞りを確定するというような流れを考えているところ。
- 委員** そういう流れを考えていただけということ。公共主体か民間主体か等、方向づけした方がやりやすいという話もあった。

4 その他

- 事務局 第4回専門家委員会日程については、3月で日程調整をしたい。
- 事務局 3月までに専門家委員会の開催は難しいのでアンケート、配布する資料をいったんお送りし、メール等で意見を伺う。
- 委員 考え方をまとめたものをメール等で送っていただけるということ。次の3月はそのアンケート内容・機能を検討して、市民アンケートを取るスケジュールでいいか。
- 事務局 アンケートは2月にさせていただきたい。今日の意見をアンケートに反映させる。併せて、総合計画等アンケートを書く上で見ていただく資料を作成し1月中旬にメール、郵送等で配る。それをもう一度見ていただく。専門家委員会は開く時間がないので、意見をいただきながら、アンケートを確定し、2月にアンケートを実施する。3月の専門家委員会は、アンケートの結果を見て、鳥取市が機能を絞り、また意見をいただく形になると考えている。
- 事務局 アンケートは資料4-1をベースに内容を検討。そのアンケートに添付する基本情報も併せて1月に送っていただけるということ。それに対して、コメントがあればまたメール、電話でフィードバックさせていただくスケジュールでよろしいか。次回開催について3月中。